

# 竹久夢二と

## 有本芳水の風景

伊藤 正則

### 夢二のふくやう

竹久夢二(1884~1934)の生家は孟宗竹が背後に茂る山ふところにあった。土塀に囲まれた庭に面して茅葺きの母屋と納屋がL字型に建っている。入口には、生涯を通じて深い理解者であった有島生馬の碑文「竹久夢二ここに生きる」がある。庭の棚には、ぶどうの房が太って秋の近いことを感じさせてくれた。

母屋と納屋は、夢二郷土美術館として当時のままに保存され、夢二の作品が展示されている。夢二が少年時代に勉強部屋として使っていた小部屋もそのまま残されていた。彼を可愛がっていた姉の松香さんが、西大寺へ嫁にいった時、淋しくて「竹

久松香」と墨で書いた窓の柱の落書きは、文字が薄れたため別に保存されていた。

夢二が窓から眺めた街並風景はなく、民家が並んでいた。彼はここで16歳まで過ごしたのである。

夢二は三歳の時から馬の絵を画いたと『草画』の巻頭文に記している。また、生家近くの氏神高星神社の社殿や祇園神社の塀などに、三つ年上の詩人正富汪洋(同地出身、夢二の生家裏の国司さまを祀った丘に詩碑がある)と鉛筆などで絵の落書きをして遊んだ。

夢二は水泳が得意で、高星神社の



竹久夢二の生家と納屋



夢二少年の勉強部屋

下の小川で汪洋らと泳ぎ、疲れると神社へ引き上げて鳥居に小石を投げた。投げた石が鳥居に乗れば、神様は願いごとを叶えてくれるとの言い伝えを信じて小石を投げたという。その鳥居下に夢二の「宵待草」の碑があったが、コミュニケーションの庭に移されていた。確かに広い場所にはなったが、夢二の少年時代に遊んだ鳥居下のままがよかったのにと残念に思った。

夢二の描いたふるさとのモチーフ



有本芳水「小とりよ」の詩碑・後楽園西外苑

小とりとなりて春の日を  
声はりあげてうたひしや  
有本芳水  
近くに元岡山県知事・三木行治の  
芳水讃歌の文章が刻まれている。彼  
は大正前期、夢二の挿絵入りで芳水  
の詩が毎月載った雑誌「日本少年」  
と、単行本『芳水詩集』の愛読者で  
あったのだ。この詩碑建立（196  
1年）を機に、『芳水詩集』が昔ど  
おりの夢二の装丁・挿絵入りで復刻  
出版されたことも知った。



復元された東京時代のアトリエ 少年山荘

は、生まれた邑久の里山や川：小徑  
大師堂、静円寺、高星神社、あるい  
は母の家の白壁、ツバキの老木など  
であった。都会的な印象の強い抒情  
派画人の育った場所が、牧歌的風景  
を残しており、印象深かった。  
生家の隣には、彼が41歳の時、  
東京世田谷に建てたアトリエ「少年  
山荘」が復元されている。夢二が自  
ら設計したといわれるおしゃれな洋  
館は、大正ロマンそのものの佇まい  
であった。だが、不思議と邑久の田  
園風景と違和感がない。夢二のアト



母校・関西高校に建つ有本芳水詩碑

リエという先入観からだけでなく、  
望郷の詩人の夢の原点に建っている  
からだろうか。  
有本芳水の詩碑  
有本芳水（1886〜1976）は隣  
県・姫路市の生まれだが、小学校卒  
業後、岡山県に移住、関西（かんぜ  
い）中学（現 関西高校）から早稲  
田大学文科に進み、若山牧水、正富  
汪洋らと作品を雑誌に発表している。  
卒業後、実業之日本社に入り、竹久  
夢二と知り合った。

友情にみちた詞だが、すでに夢二  
の研究者・長田幹雄さんはじめ、何人  
かが指摘しているように、「宵待草」  
の作詩の場所は岡山の後楽園、また  
は旭川畔ではない。  
「宵待草」が発表されたのは、大  
正2年11月発行の絵入小唄集『ど  
んたく』である。夢二が彦乃と岡山  
へ来たのは大正6年以降であること  
は、彼の年譜で明らかである。二人  
が旭川河畔を散歩していたのは、発  
表後のことであった。「宵待草」の  
作詩場所は、夢二研究者が言ってい  
るように、千葉県銚子市の犬吠崎に  
近い海鹿島であろう。  
また、宵待草という植物はないの  
に、夢二が間違えたという指摘をし  
た人もあったが、夢二は「おまつ  
よい草」のことは知っており、河原  
や土手に咲く月見草を歌ったもので  
夢二流に「宵待草」としたところに、

後楽園の旭川べりに建つ夢二の碑  
は、川の流れを見下ろす眺望のいい  
小公園にある。  
までど暮せど来ぬひとを  
宵待草のやるせなき  
こよひは月も出ぬさうな  
夢  
少し離れた左手に有本芳水の副碑  
がある。  
：画家であり詩人であった夢二  
その絵は線で描いた詩であった  
（中略）岡山に帰り旭川の河原  
に咲いた宵待草に思いをよせて  
この詩をよんだ  
（中略）：夢二はもういない  
しかしその絵は詩は今なお生き  
ている

宵待草の小唄碑と芳水



夢二の「宵待草」の碑と有本芳水碑  
旭川河畔

正2年11月発行の絵入小唄集『ど  
んたく』である。夢二が彦乃と岡山  
へ来たのは大正6年以降であること  
は、彼の年譜で明らかである。二人  
が旭川河畔を散歩していたのは、発  
表後のことであった。「宵待草」の  
作詩場所は、夢二研究者が言ってい  
るように、千葉県銚子市の犬吠崎に  
近い海鹿島であろう。  
また、宵待草という植物はないの  
に、夢二が間違えたという指摘をし  
た人もあったが、夢二は「おまつ  
よい草」のことは知っており、河原  
や土手に咲く月見草を歌ったもので  
夢二流に「宵待草」としたところに、

1914（大正3）年、夢二の装  
丁・挿絵により出版された処女詩集  
『芳水詩集』は、爆発的人気を得て  
少年文学のベストセラーになり、2  
70版という異例の版を重ねた。  
母校・関西高校の校庭にある詩碑は、  
人は故郷を思ふとき  
赤き夕日に涙せむ  
人は母校を思ふ時  
とび行く雲を空に見む  
母校恋しや帰りたや  
である。  
岡山市早稲田中学校裏山に建つ詩碑  
春は名のみの野つかさに  
たまたま逢ひし旅人よ：：  
は、丸山という名の小公園の雑草の  
中にあり、誰も知らず、探すのに苦  
勞した。  
二つの詩碑にくらべて、後楽園外  
苑の詩碑は、白御影石のスマートな  
碑であった。  
小とりよ  
小鳥よ小鳥うらやまし  
うまれ故郷の恋しさに

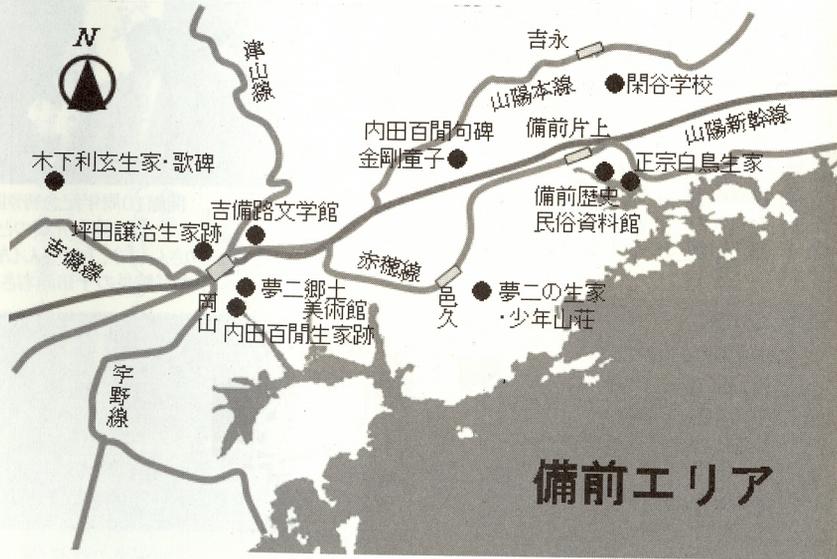
## エリア別 岡山文学MAP



## 備中エリア



## 備前エリア



彼の詩精神があるといえよう。さらに、この唄にはエピソードがある。昭和13年、松竹が高峰三枝子主演で映画化した時、高峰は二節まで歌っている。これは一節だけでは淋しいということで、夢二の了解のもとに西条八十が作詩したという。夏の宵に花開いて、明るる日の陽には耐えられずしおれる、はかない花。あまりにもナイーブな「宵待草」の唄だが、多く人を魅了し、口ずさまれてきた。夢二の絵と芳水の詩とを組み合わせて、感傷好きの少年読者を喜ばせた、コンビ的存在であった芳水としては「宵待草」の作詩場所を旭川と思いついたとしてもやむえないことなのかも知れない。

### 夢二郷土美術館

後楽園に入る蓬萊橋のたもとに、赤レンガ造りで、屋根には風見鶏のついたエキゾチックな夢二郷土美術館がある。「宵待草」のメロディーが流れる館内には、彼の残した素描、水彩、油絵、雑誌の挿絵など数多く展示されていた。恋に生きた夢二は、旅人でもあつ

た。京都、長崎、伊香保温泉、東京、そしてアメリカなど各地の作品が豊富だった。画人、詩人、旅人夢二の足跡をたどり、信州富士見高原療養所でふるさとへの郷愁のなかで「ありがとう」の言葉を最後に波瀾の生涯を終えた夢二を偲んだことだった。

### ◆ DATA

- 夢二郷土美術館本館  
岡山市浜2丁目1-32  
JR 岡山駅からバス後楽園方面行「蓬萊橋」下車すぐ  
9時～17時 月曜休館  
大人700円。
- 夢二生家・少年山荘  
瀬戸内市邑久町本庄  
JR 赤穂線邑久駅からバス、タクシ10分  
9時～17時 月曜休館  
大人500円

☎0869・22・0622



夢二郷土美術館 本館

- 参考文献  
『夢二のふるさと』真田芳夫著  
岡山文庫 1984年刊  
『岡山の文学碑』山本達太郎著  
岡山文庫 1996年刊

## ユニークさ誇る 吉備路文学館

伊藤 正則

館長の千田洋右さんは、話している間に個性が輝いてくる方である。

大学の文学部を卒業して、新聞記者か高校の国語の教師になろうかと思っ

ていたが、いつの間にか銀行マンになっていた人。その中国銀行の企画部長代理のときに、文学館造りに情熱を注いだ話に感動した。オープン時に広報室長そして地元TV局の役員をへて、開館10周年を前に赴任。この館長がいたから、今日の吉備路文学館があるんだと、ユニークさの一つひとつが胸に落ち、納得した。

1986年秋に開館したこの文学館は、地元企業の中国銀行が基金三億円余を拠出、財団法人を設立、土地、建物、資料などの計十数億円相当も銀行から提供した。当時のトップ、そして続く歴代のトップが地域社会への貢献という理解が大きい。また、「金は出すが口は出さない」との約束で、現場に運営一切をまかせており、ユニークな文学館だ。

対象地域は館名のように古代の吉備に広げ、広島県の一部にもまたがっている。このためもあって関係文学者は180人にも及び、資料が豊富なことも特徴にあげられよう。

開館10周年記念特別展は、「吉行淳之介展」「木山さん捷平さん展」。20周年記念展は、「薄田泣菫展」を予定している。このほか年四回の企画展を行うが、こ



開館10周年記念特別展  
吉行淳之介展のとき  
吉行めぐりさん(右)、和子さん(左)  
中央が館長の千田洋右さん

の企画、構成、制作、ポスター・チラシのデザイン、展示作業まで、館長はじめスタッフ全員でこなし、外部業者は使わない。

展示場以外のスペースは講座、講演会に、二階の研究室は各分野の文学研究会に活用、生涯学習の場として提供していることも注目した。

この文学館は清雅な庭園をもっており、旭川の支流、西川疎水を引き込んだ泉水の周囲には四季折々の花が咲き目を楽しませ

てくれる。毎年春には、この庭で野点の「鬱金(うこん)桜茶会」を催すなど、優雅な文学館である。



吉備路の作家 墨書展

### DATA

岡山市南方 3-5-35  
TEL:086-223-7411  
開館: 9:00~17:00  
休館日: 月曜日と祝日の翌日  
年末年始  
入館料: 大人 400円  
交通: JR岡山駅からバス  
南方交番前下車、徒歩3分